

ANAホールディングス株式会社 説明会

2023年3月期 第2四半期決算

2022年10月31日

代表取締役社長

芝田 浩二



©ANAHD2022

1

- ◎ 本日はお忙しい中、2023年3月期 第2四半期の決算説明会にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。
- ◎ 上期は、様々な制約が続いた中、収益性を重視した対応を徹底した結果、当初計画以上に業績が改善しました。
一方で、下期は外部環境が好転して、人々の動きが活発化します。
着実にトップラインを向上し、業績のさらなる改善を図っていく所存です。
- ◎ 本日、私からは、
 - 1) 第2四半期決算の概要
 - 2) 通期業績予想の修正
 - 3) 中期的な戦略の方向性の3点についてご説明します。
- ◎ 最初に、スライドの4ページをご覧ください。

目次

1. 2022年度 第2四半期決算

| | |
|-----------------|---------|
| 決算概要 | P. 4 |
| 事業別の取り組み（上期） | P. 5 |
| 旅客需要の推移・見通し | P. 6 |
| 通期業績予想（修正） | P. 7 |
| 事業別の取り組み（下期） | P. 8 |
| 中期的な戦略の方向性 | P. 9-10 |
| 次期「中期経営戦略」の位置づけ | P. 11 |
| 中長期的な経営テーマ | P. 12 |

| | |
|--------------------|----------|
| 航空事業 | |
| LCC | P. 28 |
| 事業別の概況 | P. 29-30 |
| ANA国際線 方面別実績（構成比） | P. 31 |
| 燃油・為替ヘッジの進捗状況（ANA） | P. 32 |
| 航空機数 | P. 33 |
| ノンエア事業 | |
| 航空事業以外のセグメント | P. 34 |

2. 2022年度 第2四半期決算（詳細）

| | |
|-----------|----------|
| 業績ハイライト | P. 14 |
| 連結決算概要 | |
| 経営成績 | P. 15 |
| 財政状態 | P. 16 |
| キャッシュフロー | P. 17-18 |
| セグメント別実績 | P. 19 |
| 航空事業 | |
| 収入・費用 | P. 20 |
| 営業利益 増減要因 | P. 21 |
| 売上高の推移 | P. 22 |
| ANA国際旅客 | P. 23 |
| ANA国内旅客 | P. 24 |
| ANA国際貨物 | P. 25-26 |
| ANA国内貨物 | P. 27 |

3. 2022年度 通期業績予想（詳細）

| | |
|------------------------|----------|
| 連結業績予想 | P. 38 |
| セグメント別 計画 | P. 39 |
| 航空事業 売上高・営業費用 計画 | P. 40 |
| 航空事業 営業利益（前年実績との差異） | P. 41 |
| 航空事業 営業利益（当初計画との差異） | P. 42 |
| 計画前提（ANA旅客事業・貨物事業、LCC） | P. 43-45 |

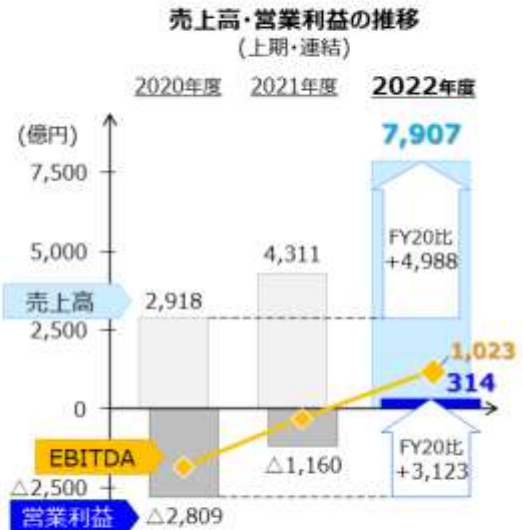
1. 2022年度 第2四半期決算（概要）



決算概要

2022年度 第2四半期決算（連結）

| | 実績 | 前年差 | 前年比 |
|----------------------|-------|--------|--------|
| 売上高 | 7,907 | +3,595 | +83.4% |
| 航空事業 | 7,128 | +3,425 | +92.5% |
| 営業費用 | 7,592 | +2,121 | +38.8% |
| 航空事業 | 6,728 | +1,888 | +39.0% |
| 営業利益 | 314 | +1,474 | - |
| 航空事業 | 399 | +1,537 | - |
| 経常利益 | 302 | +1,457 | - |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 195 | +1,183 | - |
| EBITDA | 1,023 | +1,448 | - |



- 売上高 : 回復し始めた旅客需要を取り込み、前年から大幅に増加
- 営業利益 : トップラインの増加を利益へ繋げ、上期で黒字に転換
- EBITDA : 前年同期と比べて、1,448億円の改善

©ANAHD2022

4

- ◎ 第2四半期決算の概要について、ご説明します。
- ◎ **売上高**は、前年から3,595億円、83.4パーセント増加の、7,907億円となりました。航空事業において、旅客需要を着実に取り込んだほか、国際貨物の単価を向上させたことも寄与し、前年から大幅な増収となりました。
- ◎ **営業利益**は、前年から1,474億円改善して、314億円となりました。コストマネジメントを徹底することで、トップラインの増加を利益へ繋げ、上期として3年ぶりに黒字へ転換しました。
- ◎ **親会社株主に帰属する四半期純利益**は195億円となりました。またEBITDAは、前年から1,448億円改善して、1,023億円となりました。
- ◎ 5ページをご覧ください。

事業別の取り組み（上期）

| | 具体的な取り組み | 売上高 (前年同期比) | 単価 (2019年度上期比 ^{*1}) |
|--|---|----------------|----------------------------------|
| ANA | | | |
| 国際旅客 | 日本発ビジネス需要、三国間需要などを取り込み 旅客機による貨物専用便を、段階的に旅客便へ移行 → 運航コストの増加を抑制しながら収入を拡大 | 5.3倍 | +26% (イールド) |
| 国際貨物 | フレイターをフル稼働、高単価貨物を獲得 | 1.3倍 | +266% |
| 国内旅客 | イールドマネジメントの強化で単価を向上 6月下旬から大型機(ボーイング777型機)の運航を再開 | 2.2倍 | +5% |
| peach | | | |
| LCC | 6月上旬から運賃を値上げ 夏場のレジャー・VFR ^{*2} 需要を獲得 | 3.1倍 | +13% (国内線) |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 収益性を重視しながらトップラインを向上 → 通期黒字化の目標達成に向けて前進 </div> | | | |

*1 2019年4-9月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

*2 Visiting Friends & Relatives

©ANAHD2022

5

- ◎ 上期における事業別の取り組みについてご説明します。
- ◎ **ANA国際旅客**は、日本発のビジネス需要や、旺盛な三国間需要を取り込みました。旅客需要の回復に合わせ、旅客機による貨物専用便を旅客便へ移行することで、運航コストの増加を抑制しながら、売上高を前年の5.3倍に拡大しました。
- ◎ **ANA国際貨物**では、フレイターをフル稼働させながら、高単価貨物を獲得した結果、売上高は1.3倍となり、上期として過去最高となりました。
- ◎ **ANA国内旅客**は、イールドマネジメントを強化したほか、6月下旬から大型機の運航を再開しました。コロナ感染第7波の影響を受ける中でも、売上高は2.2倍となりました。
- ◎ **Peach**は、夏場のレジャー・VFR需要を獲得したことで、売上高は3.1倍に増加しました。
- ◎ 以上4つの事業分野の単価・イールドは、コロナ前と比べて大幅に改善しています。収益性を重視しながら、トップラインを向上させたことで、通期黒字化の達成に向けて着実に前進しました。
- ◎ 6ページをご覧ください。

旅客需要の推移・見通し

上期 (実績)

下期 (見通し)

| | | |
|------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 国内旅客 | ビジネス需要は堅調な回復が継続 コロナ第7波でレジャー需要が伸び悩み | 「全国旅行支援」の開始 レジャー需要が回復を牽引 |
| 国際旅客 | 日本発ビジネス需要などが回復 三国間需要も積極的に取り込み | 日本発着のビジネス需要が着実に増加 水際緩和で訪日客も増加へ |

旅客数の推移・見通し

コロナ前の旅客数(2019年1~12月実績)=100%



* 収益認識に関する会計基準の適用により、実績・見通しともに特典航空券の利用旅客を含んで算定
(新収益認識に基づいて変更した2019年1~12月実績との対比)

©ANAHD2022

6

◎ 旅客需要の見通しです。

◎ **国内旅客**について、

下期は、全国旅行支援の開始などにより、レジャー需要が回復を牽引すると想定しています。年度末にはANAとPeach合計で、旅客数がコロナ前水準に回復すると見通しています。

◎ **国際旅客**については、水際対策が緩和されたことで、

日本発、海外発の双方向で、予約数が大幅に増加しています。

ANA国際線の旅客数は、年度末には、コロナ前の60%に回復すると想定しています。

◎ 7ページをご覧ください。

通期業績予想（修正）

2022年度 通期業績予想の修正（連結）

| (億円) | 当初計画 (22.4.28) | 今回修正 (22.10.31) | 当初差 |
|---------------------|-------------------|--------------------|--------|
| 売上高 | 16,600 | 17,000 | +400 |
| 航空事業 | 14,700 | 15,270 | +570 |
| 営業利益 | 500 | 650 | +150 |
| 航空事業 | 520 | 680 | +160 |
| 営業利益率 | 3.0% | 3.8% | +0.8pt |
| 経常利益 | 300 | 550 | +250 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 210 | 400 | +190 |
| EBITDA | 2,035 | 2,105 | +70 |

修正のポイント

- 1) 国際線事業の増収（旅客・貨物）
- 2) 国内旅客の需要回復は後ろ倒し
- 3) 市況前提を見直し（為替・燃油）

通期業績予想を上方修正
（上期の利益上振れ分を反映）

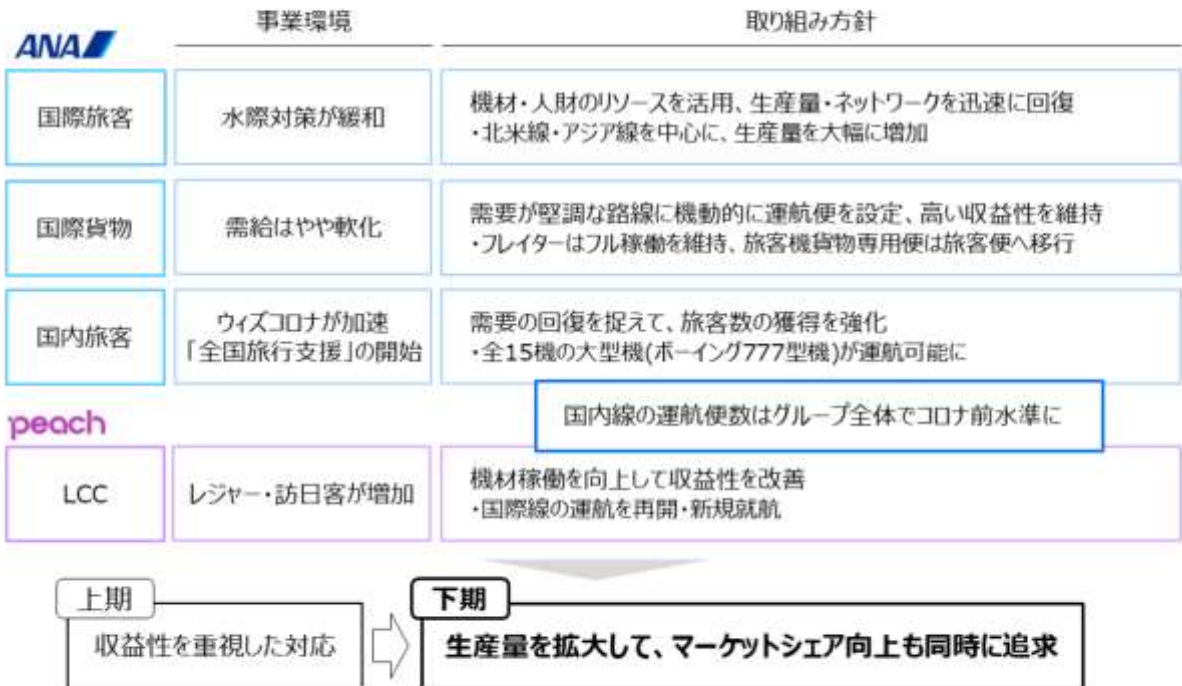
| 市況 | 当初計画 | 修正計画 (下期) |
|-------------------|------|--------------|
| 為替レート (円/US\$) | 120 | 145 |
| F/バイ原油 (US\$/bbl) | 105 | 100 |
| シンケロ (US\$/bbl) | 120 | 130 |

©ANAHD2022

7

- ◎ 通期業績予想の修正について、ご説明します。
- ◎ 国際線事業について、旅客、貨物ともに、売上高が当初計画を大幅に上回って推移しています。一方で、国内旅客の需要回復は、感染第7波の影響を受けて、後ろ倒しとなる見込みです。また、市況前提を実勢に合わせて見直します。
- ◎ 以上をふまえ、あらためて年度見通しを精査した結果、上期の利益上振れ分を反映して、通期の業績予想を修正することとしました。
- ◎ 売上高は、当初計画から400億円増加の、1兆7,000億円とします。営業利益は、当初計画の500億円から、650億円に修正します。経常利益は550億円、親会社株主に帰属する当期純利益は400億円とします。
- ◎ 8ページをご覧ください。

事業別の取り組み（下期）

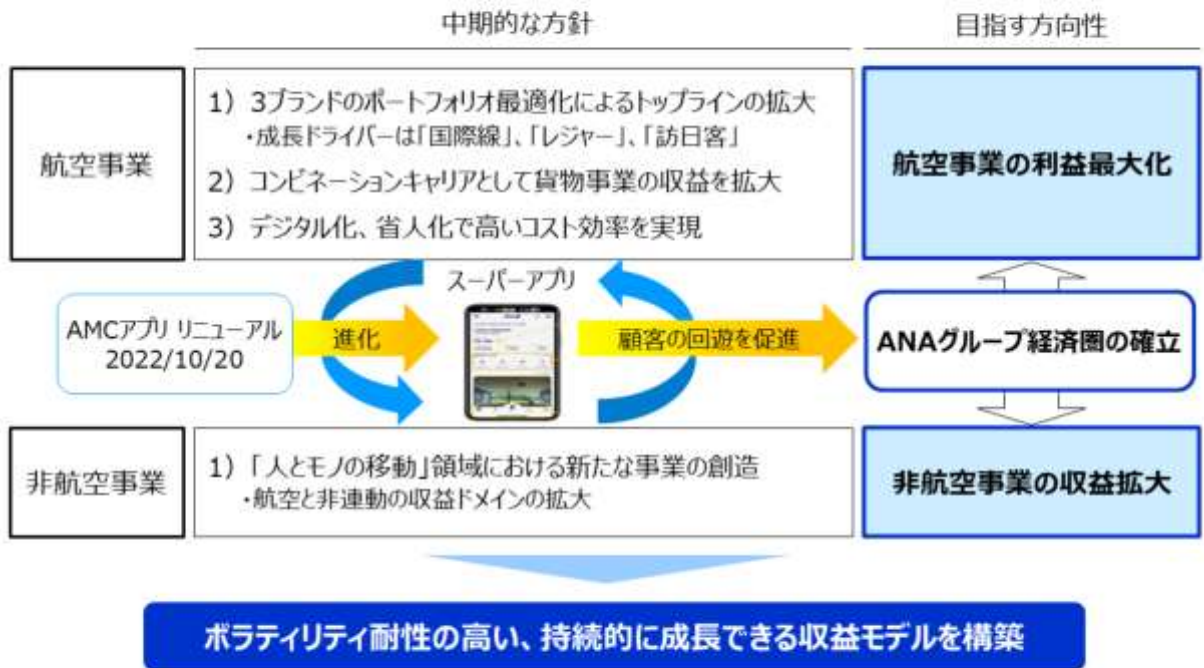


©ANAHD2022

8

- ◎ 下期における事業別の取り組みについてご説明します。
- ◎ **ANA国際旅客**は、機材と人財のリソースを活用して、生産量とネットワークを迅速に回復します。需要の回復が早い北米線とアジア線は、冬ダイヤから生産量を大幅に増加します。
- ◎ **ANA国際貨物**では、需要が堅調な路線に機動的にフレイターを投入することで、引き続き高い収益性を維持します。
- ◎ **ANA国内旅客**は、需要の回復を捉えて、旅客数の獲得を強化します。10月初めから、全15機の大型機が運航可能となりました。国内線の運航便数は、Peachと合わせて概ねコロナ前の水準に戻す計画です。
- ◎ **Peach**は、機材稼働を向上させて、収益性を改善します。国際線で6路線の運航を再開するほか、12月27日から関西＝バンコク線を新たに開設し、中距離路線にも進出します。
- ◎ これらの通り、下期は生産量の拡大を加速して、マーケットシェア向上も同時に追求します。9ページをご覧ください。

中期的な戦略の方向性（事業戦略）



- ◎ 中期的な戦略の方向性について、ご説明します。最初に事業戦略です。
- ◎ **「航空事業」**では、ANA・Peach・新生AirJapanの3ブランドのポートフォリオ最適化により、成長ドライバーである、国際線・レジャー・訪日客をターゲットに、トップラインを拡大します。また、フレイターとベリーの両方を有するコンビネーションキャリアとして、貨物事業の収益を拡大するほか、高いコスト効率を実現することで、航空事業の利益を最大化します。
- ◎ **「非航空事業」**では、「人とモノの移動」領域において、新たな事業を創造し、航空と連動しない収益ドメインの拡大を目指します。
- ◎ 10月20日に、ANAマイレージクラブのアプリをリニューアルしました。今後も継続的に機能や商材を追加し、スーパーアプリに発展させていくことで、マイルをフックにした顧客の回遊を促し、ANAグループ経済圏を確立します。
- ◎ これらの戦略を推進することによって、ポラティリティ耐性の高い、持続的に成長できる収益モデルを構築していきます。
- ◎ 10ページをご覧ください。

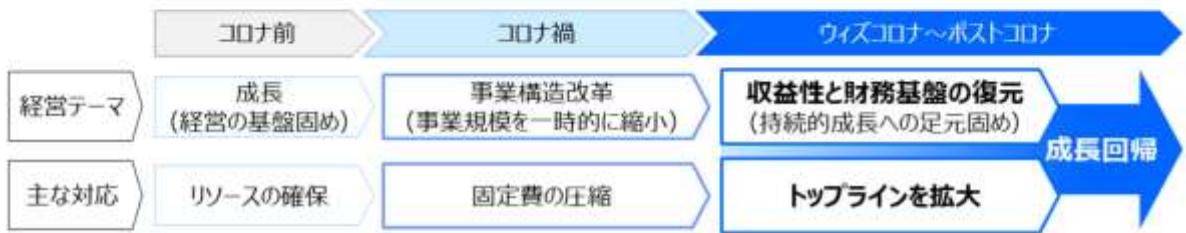
中期的な戦略の方向性（財務戦略）

| | 中期的な方針 | 目指す水準 |
|----------|--|--|
| 損益（P/L） | 1) トップラインを向上 2) コロナ前以上の利益・利益率を実現 ・固定費のリバウンド抑制を継続 | ✓ 売上高 2兆円 ✓ 営業利益 2,000億円 ✓ 営業利益率 10% |
| バランスシート | 1) 着実な財務基盤の回復 2) 手元流動性を中期的に圧縮 | ✓ 自己資本 1兆円以上 ✓ 自己資本比率 40%水準 |
| キャッシュフロー | 1) 財務規律をふまえた設備投資 2) フリーキャッシュフローの確実な創出 | ✓ 設備投資 2,500億円/年 ✓ フリーキャッシュフロー ポジティブ維持 |

収益性の向上と財務基盤の回復を同時に追求

- ◎ 次に、財務戦略です。
- ◎ **損益(P/L)**について、
 トップラインの向上と、コロナ前以上の利益、並びに利益率を目指します。
 具体的には、売上高2兆円、営業利益2,000億円、営業利益率10%を目標とします。
- ◎ **バランスシート**に関しては、利益の蓄積により、着実に財務基盤を回復させる一方、手元流動性を中期的に圧縮することで、資産効率を改善します。
 当面は、自己資本で1兆円以上、自己資本比率で40%水準を目指します。
- ◎ **キャッシュフロー**では、
 財務規律をふまえて、設備投資を年平均で2,500億円程度にコントロールしながら、フリーキャッシュフローを創出していきます。
- ◎ 続いて、11ページをご覧ください。

次期「中期経営戦略」の位置づけ



©ANAHD2022

11

- ◎ 次期「中期経営戦略」の位置づけについて、ご説明します。
- ◎ これまでコロナ禍の影響が続いた中、事業構造改革を実行し、事業規模を一時的に縮小することで、固定費を大幅に圧縮しました。
- ◎ 次期「中期経営戦略」は、2025年度までの3年間を対象とする予定です。コロナ禍で培ったコスト構造を下支えに、収益性と財務基盤を早期に復元し、持続的な成長を目指すための足元を固めます。中期的に利益を拡大しながら、成長回帰を実現していきます。
- ◎ 12ページをご覧ください。

中長期的な経営テーマ



- ◎ 最後に、中長期的な経営テーマについて、ご説明します。
- ◎ **1番の航空事業**は、グループコア事業として、利益の最大化を追求すると同時に、**2番の非航空事業**において、新たな収益の柱を確立します。EPSを向上し、強固な財務基盤を構築しながら、株主還元を強化していきます。
- ◎ **3番は人的資本**です。従業員の待遇改善や、エンゲージメント向上に注力するとともにデジタル化により生産性を向上しながら、経営基盤としての「人の力」を最大化します。
- ◎ **4番の環境への対応**としては、トランジションシナリオを推進し、カーボンニュートラルの実現を目指します。
- ◎ **5番のパーパス・経営ビジョン**に関して、当社グループは今年の12月に創業70周年を迎えます。中長期的に目指す経営の方向性を明確にし、経営理念を追求していきます。
- ◎ ポストコロナにおいても、社会的価値と経済的価値を同時に創造していくため、私が先頭に立って経営を舵取りしていきます。
- ◎ 以上で、私からの説明を終わります。ご清聴、ありがとうございました。

2. 2022年度第2四半期 決算（詳細）



©ANAHD2022

13

- ◎ 私から、2022年度 第2四半期決算の詳細、並びに通期業績予想について、ご説明します。
- ◎ 14ページをご覧ください。

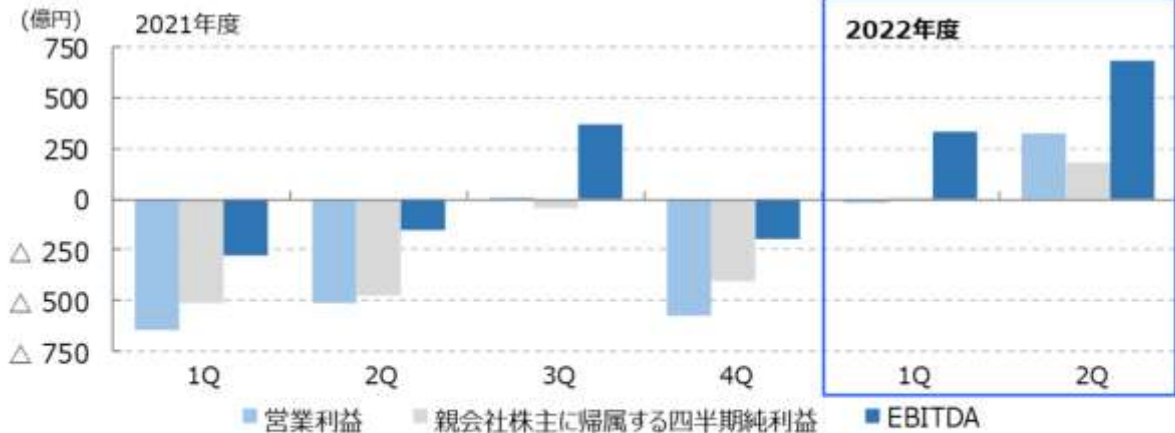
当第2四半期と前年度各四半期の業績比較

【2022年度 第2四半期 累計 (連結)】

- 営業利益 : 314億円 (前年同期比 +1,474億円)
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : 195億円 (同 +1,183億円)
- EBITDA* : 1,023億円 (同 +1,448億円)

【第2四半期 (7-9月期) (連結)】

- 営業利益 : 327億円
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : 185億円
- EBITDA : 685億円



©ANAHD2022

* 休止機材費に計上した減価償却費を含まない

14

- ◎ 業績ハイライトです。
- ◎ 当第2四半期は、営業利益、四半期純利益、EBITDAの3つの指標について、コロナ禍で初めて、直近3ヶ月間の実績が全てプラスに転じました。
- ◎ 15ページをご覧ください。

経営成績

| (億円) | FY2021 第2四半期累計 | FY2022 第2四半期累計 | 前年差 | FY2022 第2四半期 | 前年差 |
|------------------|-------------------|-------------------|---------|-----------------|---------|
| 売上高 | 4,311 | 7,907 | + 3,595 | 4,402 | + 2,080 |
| 営業費用 | 5,471 | 7,592 | + 2,121 | 4,075 | + 1,239 |
| 営業利益 | △ 1,160 | 314 | + 1,474 | 327 | + 841 |
| 営業利益率 (%) | - | 4.0 | - | 7.4 | - |
| 営業外損益 | 4 | △ 12 | △ 16 | △ 69 | △ 65 |
| 経常利益 | △ 1,155 | 302 | + 1,457 | 258 | + 775 |
| 特別損益 | △ 58 | △ 0 | + 57 | - | + 58 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | △ 988 | 195 | + 1,183 | 185 | + 661 |
| 四半期純利益 | △ 977 | 200 | + 1,178 | 189 | + 662 |
| その他包括利益 | 60 | 221 | + 161 | △ 56 | △ 91 |
| 包括利益 | △ 917 | 422 | + 1,340 | 132 | + 570 |

©ANAHD2022

15

- ◎ 連結決算の概要です。
- ◎ 売上高は、前年同期から3,595億円増加し、7,907億円となりました。
- ◎ 営業費用は、前年から2,121億円増加の、7,592億円となりました。
生産量を徐々に拡大する中でも、コストマネジメントを徹底しました。
- ◎ これらの結果、営業利益は314億円、経常利益は302億円、
親会社株主に帰属する四半期純利益は195億円となりました。
- ◎ 16ページをご覧ください。

財政状態

| (億円) | FY2021 期末 | FY2022 第2四半期末 | 前年度 期末差 |
|------------------|--------------|------------------|------------|
| 総資産 | 32,184 | 32,674 | + 490 |
| 自己資本 | 7,972 | 8,413 | + 440 |
| 自己資本比率 (%) | 24.8 | 25.7 | + 1.0pt |
| 有利子負債残高 | 17,501 | 16,399 | △ 1,102 |
| D/ELシオ (倍) | 2.2 | 1.9 | △ 0.2 |
| 手元流動性資金 *1 | 9,509 | 9,970 | + 461 |
| 純有利子負債残高 *2 | 7,991 | 6,428 | △ 1,563 |
| ネットD/ELシオ (倍) *3 | 1.0 | 0.8 | △ 0.2 |

*1 手元流動性資金 = 現金及び預金 + 有価証券

*2 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - 手元流動性

*3 ネットD/ELシオ = 純有利子負債 ÷ 自己資本

- ◎ 財政状態です。
- ◎ 総資産は3兆2,674億円、自己資本は8,413億円となり、自己資本比率は、25.7パーセントとなりました。
また、有利子負債は1兆6,399億円、デット・エクイティ・レシオは1.9倍となりました。
- ◎ 当四半期末における手元流動性資金は、9,970億円となったことから、ネットデット・エクイティ・レシオは、0.8倍となりました。
- ◎ 17ページをご覧ください。

キャッシュフロー

| (億円) | FY2021 第2四半期 | FY2022 第2四半期 | 前年差 |
|-------------------------------------|-----------------|-----------------|---------|
| 営業キャッシュフロー | △ 778 | 1,909 | + 2,688 |
| 投資キャッシュフロー | 2,083 | △ 977 | △ 3,061 |
| 財務キャッシュフロー | △ 191 | △ 1,120 | △ 929 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 1,113 | △ 109 | △ 1,223 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 3,703 | 6,210 | } △ 109 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 4,817 | 6,100 | |
| 減価償却費 | 784 | 747 | △ 37 |
| 設備投資額 (固定資産のみ) | 804 | 483 | △ 321 |
| 実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く) | △ 1,258 | 1,502 | + 2,760 |
| EBITDA (営業利益 + 減価償却費*) | △ 424 | 1,023 | + 1,448 |
| EBITDAマージン (%) | - | 12.9 | - |

* 休止機材費に計上した減価償却費を含まない

©ANAHD2022

17

- ◎ キャッシュフローです。
- ◎ 営業キャッシュフローは1,909億円の収入となりました。
貨物事業の増収や固定費の削減効果に加えて、
旅客需要が回復したことで、大幅なプラスとなりました。
- ◎ 投資キャッシュフローは、977億円の支出、
財務キャッシュフローは、1,120億円の支出となりました。
- ◎ 続きまして 18ページをご覧ください。

【参考】実質フリーキャッシュフローの推移



©ANAHD2022

* 東京都において「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」が発出された日数

18

- ◎ 実質フリーキャッシュフローの推移です。
- ◎ 上期の実績は1,502億円の収入となり、前年から大幅に改善しました。設備投資の抑制やコストマネジメントなど、「事業構造改革」の効果を維持しながら収入を伸ばしたことで、上期として過去最高の水準となりました。
- ◎ 19ページをご覧ください。

セグメント別実績

| (億円) | | FY2021 第2四半期累計 | FY2022 第2四半期累計 | 前年差 | FY2022 第2四半期 | 前年差 |
|------|--------|-------------------|-------------------|---------|-----------------|---------|
| 売上高 | 航空事業 | 3,702 | 7,128 | + 3,425 | 3,985 | + 1,984 |
| | 航空関連事業 | 976 | 1,135 | + 159 | 581 | + 138 |
| | 旅行事業 | 196 | 319 | + 123 | 180 | + 75 |
| | 商社事業 | 383 | 476 | + 92 | 251 | + 60 |
| | その他 | 174 | 177 | + 2 | 88 | △ 0 |
| | 調整額 | △ 1,123 | △ 1,330 | △ 207 | △ 685 | △ 176 |
| | 合計（連結） | 4,311 | 7,907 | + 3,595 | 4,402 | + 2,080 |
| 営業利益 | 航空事業 | △ 1,137 | 399 | + 1,537 | 419 | + 880 |
| | 航空関連事業 | 16 | △ 32 | △ 48 | △ 51 | △ 17 |
| | 旅行事業 | △ 1 | △ 12 | △ 10 | △ 6 | △ 6 |
| | 商社事業 | 0 | 15 | + 15 | 10 | + 9 |
| | その他 | 6 | △ 3 | △ 10 | △ 6 | △ 9 |
| | 調整額 | △ 44 | △ 52 | △ 7 | △ 36 | △ 13 |
| | 合計（連結） | △ 1,160 | 314 | + 1,474 | 327 | + 841 |

©ANAHD2022

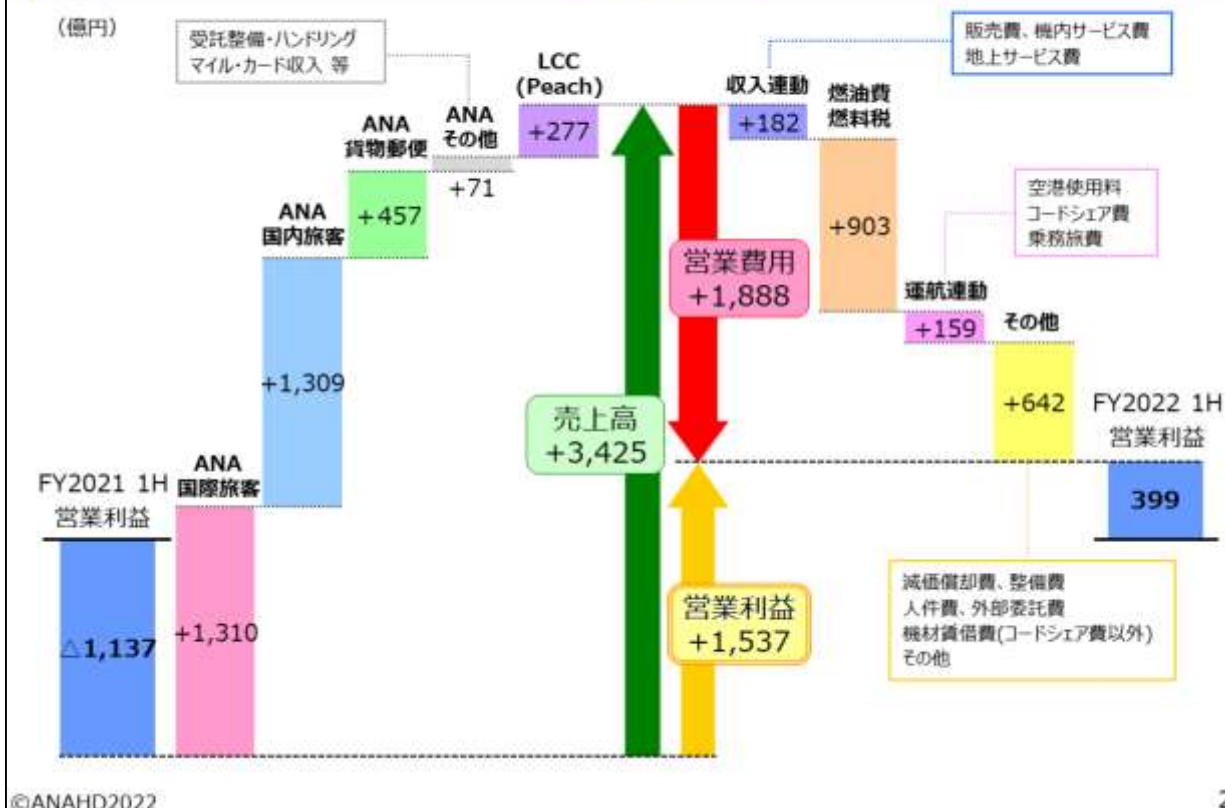
19

- ◎ セグメント別の実績です。
- ◎ 航空関連事業では、旅客需要の回復に伴い、空港ハンドリング業務などが増加し、前年から増収となりました。
- ◎ 旅行事業では、国内を中心に夏場の旅行需要を取り込み、増収となりました。
- ◎ 商社事業では、空港リテール事業が堅調に回復したことなどにより、黒字幅が拡大しました。
- ◎ 続きまして、航空事業の詳細についてご説明します。
21ページをご覧ください。

収入・費用

| | | FY2021 第2四半期累計 | FY2022 第2四半期累計 | 前年差 | FY2022 第2四半期 | 前年差 |
|------|---------------------|-------------------|-------------------|---------|-----------------|---------|
| (億円) | | | | | | |
| 売上高 | ANA 国際旅客 | 304 | 1,614 | + 1,310 | 991 | + 817 |
| | ANA 国内旅客 | 1,118 | 2,428 | + 1,309 | 1,407 | + 790 |
| | ANA 貨物郵便 | 1,541 | 1,998 | + 457 | 971 | + 166 |
| | ANA その他 | 607 | 679 | + 71 | 362 | + 48 |
| | LCC | 130 | 408 | + 277 | 252 | + 161 |
| | 合計 | 3,702 | 7,128 | + 3,425 | 3,985 | + 1,984 |
| 営業費用 | 燃油費・燃料税 | 802 | 1,705 | + 903 | 921 | + 483 |
| | 空港使用料 | 193 | 268 | + 74 | 149 | + 45 |
| | 航空機材賃借費 | 562 | 648 | + 86 | 332 | + 37 |
| | 減価償却費 | 700 | 679 | △ 21 | 343 | △ 4 |
| | 整備部品・外注費 | 395 | 644 | + 248 | 348 | + 143 |
| | 人件費 | 761 | 925 | + 163 | 504 | + 120 |
| | 販売費 | 119 | 227 | + 107 | 114 | + 52 |
| | 外部委託費 | 814 | 949 | + 135 | 495 | + 136 |
| | その他 | 488 | 678 | + 190 | 357 | + 89 |
| | 合計 | 4,840 | 6,728 | + 1,888 | 3,566 | + 1,103 |
| 営業利益 | 営業利益 | △ 1,137 | 399 | + 1,537 | 419 | + 880 |
| | EBITDA (営業利益+減価償却費) | △ 436 | 1,079 | + 1,516 | 762 | + 876 |
| | EBITDAマージン (%) | - | 15.1 | - | 19.1 | - |

営業利益 増減要因



21

- ◎ 航空事業における、営業利益の前年比較です。
- ◎ **売上高**は、旅客事業が大幅に伸長したことなどにより、全体で3,425億円の増加となりました。
- ◎ **営業費用**は、燃油費やグループ従業員の人件費が増加しましたが、コストマネジメントを徹底したことで、前年から1,888億円の増加に留めました。
- ◎ これらの結果、**営業利益**は、前年から1,537億円改善して、399億円の黒字となりました。
- ◎ 次の22ページには、事業別の四半期売上高の推移をお示ししていますので、ご確認ください。29ページをご覧ください。

【参考】売上高の推移

旅客需要の回復に伴い、コロナ禍で最高の売上高を計上



ANA国際旅客

| | FY2021 第2四半期累計 | FY2022 第2四半期累計 | 前年比(%) (CY19比)*2 | FY2022 第2四半期 | 前年比(%) (CY19比)*2 |
|------------------------------|-------------------|-------------------|-----------------------|-----------------|-----------------------|
| 座席キロ (百万) | 9,433 | 14,710 | + 55.9 (△57.8) | 8,506 | + 72.9 (△52.1) |
| 旅客キロ (百万) | 2,247 | 10,713 | + 376.7 (△62.0) | 6,324 | + 366.6 (△56.8) |
| 旅客数 (千人) | 327 | 1,660 | + 406.6 (△69.6) | 975 | + 396.8 (△65.4) |
| 座席利用率 (%) | 23.8 | 72.8 | +49.0pt*1 (△8.0pt) | 74.4 | +46.8pt*1 (△8.1pt) |
| 旅客収入 (億円) | 304 | 1,614 | + 430.9 (△51.9) | 991 | + 468.9 (△42.9) |
| ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キロ) | 3.2 | 11.0 | + 240.5 (+14.0) | 11.7 | + 229.0 (+19.2) |
| イールド (円) (旅客収入/旅客キロ) | 13.5 | 15.1 | + 11.4 (+26.5) | 15.7 | + 21.9 (+32.2) |
| 単価 (円) (旅客収入/旅客数) | 92,784 | 97,227 | + 4.8 (+58.1) | 101,665 | + 14.5 (+64.9) |

*1 座席利用率のみ前年差及びCY19差

*2 2019年4-9月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

ANA国内旅客

| | FY2021 第2四半期累計 | FY2022 第2四半期累計 | 前年比(%) (CY19比)*2 | FY2022 第2四半期 | 前年比(%) (CY19比)*2 |
|------------------------------|-------------------|-------------------|------------------------|-----------------|------------------------|
| 座席キロ (百万) | 15,159 | 23,913 | + 57.7 (△20.9) | 12,829 | + 56.9 (△17.1) |
| 旅客キロ (百万) | 6,635 | 14,092 | + 112.4 (△37.4) | 8,116 | + 122.1 (△32.8) |
| 旅客数 (千人) | 7,140 | 15,150 | + 112.2 (△38.0) | 8,581 | + 117.8 (△34.1) |
| 座席利用率 (%) | 43.8 | 58.9 | +15.2pt*1 (△15.5pt) | 63.3 | +18.6pt*1 (△14.8pt) |
| 旅客収入 (億円) | 1,118 | 2,428 | + 117.0 (△35.1) | 1,407 | + 128.1 (△31.8) |
| ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キロ) | 7.4 | 10.2 | + 37.6 (△17.9) | 11.0 | + 45.4 (△17.7) |
| イールド (円) (旅客収入/旅客キロ) | 16.9 | 17.2 | + 2.2 (+3.7) | 17.3 | + 2.7 (+1.5) |
| 単価 (円) (旅客収入/旅客数) | 15,670 | 16,028 | + 2.3 (+4.6) | 16,401 | + 4.8 (+3.4) |

*1 座席利用率のみ前年差及びCY19差

*2 2019年4-9月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

ANA国際貨物（ペリー+フレイター）

| | FY2021 第2四半期累計 | FY2022 第2四半期累計 | 前年比(%) | FY2022 第2四半期 | 前年比(%) |
|---------------------------------|-------------------|-------------------|----------|-----------------|-----------|
| 有効貨物トンキロ（百万） | 3,388 | 3,331 | △ 1.7 | 1,687 | △ 2.8 |
| 有償貨物トンキロ（百万） | 2,516 | 2,202 | △ 12.5 | 1,077 | △ 16.0 |
| 貨物輸送重量（千トン） | 476 | 424 | △ 10.8 | 208 | △ 14.1 |
| 貨物重量利用率（%） | 74.3 | 66.1 | △ 8.2pt* | 63.8 | △ 10.1pt* |
| 貨物収入（億円） | 1,383 | 1,835 | + 32.6 | 888 | + 22.8 |
| ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ） | 40.8 | 55.1 | + 34.9 | 52.7 | + 26.3 |
| イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ） | 55.0 | 83.3 | + 51.5 | 82.5 | + 46.2 |
| 重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量） | 291 | 432 | + 48.7 | 426 | + 42.9 |

* 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国際貨物（フレイターのみ）

本表のデータは、P.25記載実績の内数

| | FY2021 第2四半期累計 | FY2022 第2四半期累計 | 前年比(%) | FY2022 第2四半期 | 前年比(%) |
|---------------------------------|-------------------|-------------------|----------|-----------------|----------|
| 有効貨物トンキロ（百万） | 1,156 | 1,225 | + 6.0 | 602 | + 2.5 |
| 有償貨物トンキロ（百万） | 810 | 795 | △ 1.8 | 384 | △ 7.8 |
| 貨物輸送重量（千トン） | 204 | 197 | △ 3.3 | 96 | △ 8.8 |
| 貨物重量利用率（%） | 70.1 | 64.9 | △ 5.1pt* | 63.8 | △ 7.1pt* |
| 貨物収入（億円） | 507 | 776 | + 52.8 | 374 | + 37.4 |
| ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ） | 43.9 | 63.3 | + 44.2 | 62.1 | + 34.0 |
| イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ） | 62.7 | 97.5 | + 55.7 | 97.4 | + 48.9 |
| 重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量） | 248 | 393 | + 58.1 | 390 | + 50.6 |

* 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国内貨物

| | FY2021 第2四半期累計 | FY2022 第2四半期累計 | 前年比(%) | FY2022 第2四半期 | 前年比(%) |
|----------------------------------|-------------------|-------------------|----------|-----------------|----------|
| 有効貨物トンキロ (百万) | 437 | 663 | + 51.8 | 364 | + 51.1 |
| 有償貨物トンキロ (百万) | 136 | 138 | + 1.3 | 70 | △ 0.6 |
| 貨物輸送重量 (千トン) | 120 | 122 | + 2.1 | 63 | △ 0.1 |
| 貨物重量利用率 (%) | 31.3 | 20.9 | △10.4pt* | 19.5 | △10.1pt* |
| 貨物収入 (億円) | 121 | 118 | △ 1.7 | 59 | △ 3.3 |
| ユニットレベニュー (円) (貨物収入/有効貨物トンキロ) | 27.7 | 17.9 | △ 35.2 | 16.4 | △ 36.0 |
| イールド (円) (貨物収入/有償貨物トンキロ) | 88.4 | 85.7 | △ 3.0 | 84.4 | △ 2.7 |
| 重量単価 (円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量) | 101 | 97 | △ 3.8 | 95 | △ 3.2 |

* 貨物重量利用率のみ前年差

LCC (Peach Aviation)

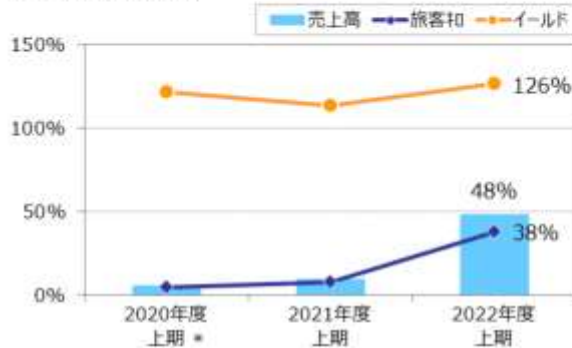
| | FY2021 第2四半期累計 | FY2022 第2四半期累計 | 前年比(%) | FY2022 第2四半期 | 前年比(%) |
|-----------------------------|-------------------|-------------------|-----------|-----------------|-----------|
| 座席キロ (百万) | 3,254 | 6,031 | + 85.3 | 3,137 | + 55.8 |
| 旅客キロ (百万) | 1,777 | 4,208 | + 136.7 | 2,269 | + 89.5 |
| 旅客数 (千人) | 1,554 | 3,684 | + 137.0 | 1,981 | + 87.6 |
| 座席利用率 (%) | 54.6 | 69.8 | +15.2pt*1 | 72.3 | +12.9pt*1 |
| 売上高 (億円) *2 | 130 | 408 | + 211.7 | 252 | + 177.0 |
| ユニットレベニュー (円) (売上高/座席キロ) | 4.0 | 6.8 | + 68.2 | 8.0 | + 77.8 |
| イールド (円) (売上高/旅客キロ) | 7.4 | 9.7 | + 31.7 | 11.1 | + 46.2 |
| 単価 (円) (売上高/旅客数) | 8,422 | 11,076 | + 31.5 | 12,742 | + 47.7 |

*1 座席利用率のみ前年差

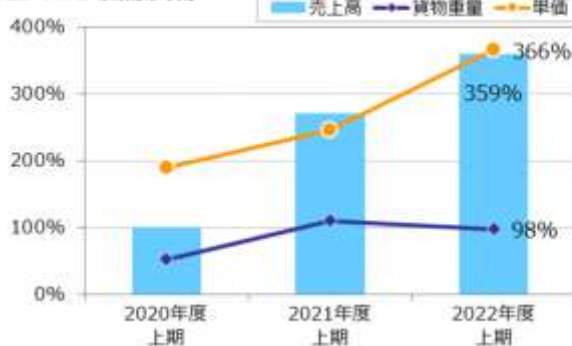
*2 売上高に付帯収入を含む

事業別の概況（ANA国際旅客・ANA国際貨物）

1. ANA国際旅客



2. ANA国際貨物



上期(4~9月)の概況

- 1) 日本発ビジネス・三国間需要を取り込み
- 2) イールドマネジメントを強化

コロナ前比

旅客キロ 38%

イールド 126%

売上高 48%

- 1) コロナ前の需要水準で推移
- 2) 高単価貨物の取り込み強化

コロナ前比

貨物重量 98%

単価 366%

売上高 359%

* グラフはコロナ前実績（2019年4~9月実績）=100%

* 2019年度、2020年度実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

©ANAHD2022

29

◎ 事業別の動向です。

グラフは各指標のコロナ前対比の推移をお示しています。

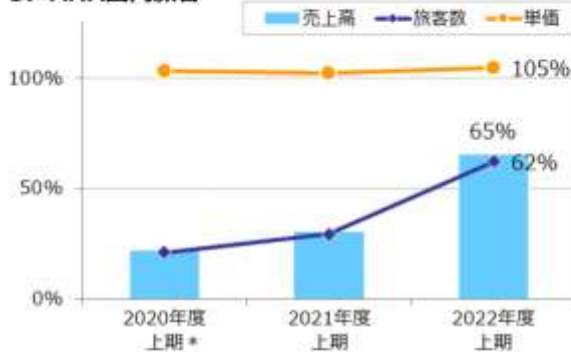
◎ 1番の**ANA国際旅客**は、日本発のビジネス需要や旺盛な三国間需要を取り込み、
上期の旅客キロはコロナ前の38パーセントまで回復しました。一方、運賃コントロールにより、イールドはコロナ前と比べて26パーセント向上したため、
売上高は48パーセントに回復しました。◎ 2番は**ANA国際貨物**です。需要はほぼコロナ前の水準で推移した一方、
高単価貨物や特殊商材の取り込みを強化したことで、
重量あたりの単価はコロナ前の約3.7倍となりました。

これらの結果、売上高はコロナ前の約3.6倍に拡大し、上期で過去最高となりました。

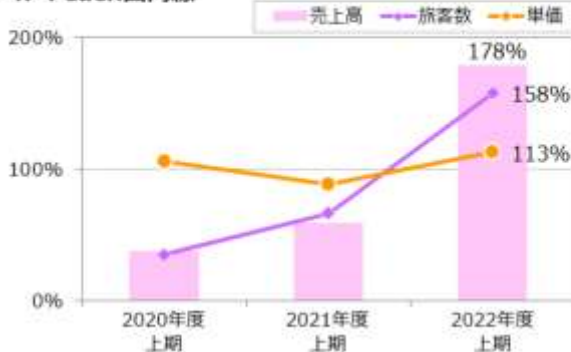
◎ 30ページをご覧ください。

事業別の概況（ANA国内旅客・Peach国内線）

3. ANA国内旅客



4. Peach国内線



上期(4~9月)の概況



* グラフはコロナ前実績（2019年4~9月実績）=100%

* 2019年度、2020年度実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

30

- ◎ 3番の**ANA国内旅客**は、
需要に合わせて生産量を拡大し、旅客数はコロナ前の62パーセントとなりました。
また、イールドマネジメントを強化し、単価が5パーセント向上したことで、
売上高は65パーセントまで回復しました。
- ◎ 4番の**Peach国内線**では、
夏場のレジャー・VFR需要を取り込み、旅客数はコロナ前の約1.6倍となりました。
運賃値上げや販売施策の効果が現れ、単価が13パーセント向上した結果、
売上高は約1.8倍に増加しました。
- ◎ 32ページをご覧ください。

ANA国際線 方面別実績（構成比）

| | | FY2019 第2四半期累計 構成比* | FY2022 第2四半期累計 構成比 | コロナ前実績 との差異 | FY2022 第2四半期 構成比 | コロナ前実績 との差異 |
|------|-----------|---------------------------|--------------------------|----------------|------------------------|----------------|
| 旅客収入 | 北米 | 30.1 | 41.5 | + 11.4 | 40.7 | + 11.2 |
| | 欧州 | 20.4 | 14.3 | △ 6.1 | 15.6 | △ 4.6 |
| | 中国 | 14.5 | 5.0 | △ 9.5 | 4.2 | △ 10.6 |
| | アジア・オセアニア | 28.5 | 36.0 | + 7.5 | 35.6 | + 8.0 |
| | ハワイ | 6.4 | 3.1 | △ 3.3 | 3.8 | △ 4.0 |

* 2019年4-9月期実績を、新収益認識基準に置き換えて算定

| | | FY2019 第2四半期累計 構成比 | FY2022 第2四半期累計 構成比 | コロナ前実績 との差異 | FY2022 第2四半期 構成比 | コロナ前実績 との差異 |
|------|-------------|--------------------------|--------------------------|----------------|------------------------|----------------|
| 貨物収入 | 北米 (ハワイを含む) | 35.9 | 49.4 | + 13.6 | 49.9 | + 14.8 |
| | 欧州 | 15.1 | 7.9 | △ 7.2 | 7.6 | △ 7.6 |
| | 中国 | 22.1 | 19.1 | △ 3.0 | 19.1 | △ 3.5 |
| | アジア・オセアニア | 23.5 | 22.9 | △ 0.6 | 22.5 | △ 0.9 |
| | その他 | 3.5 | 0.8 | △ 2.7 | 0.9 | △ 2.8 |

燃油・為替ヘッジの進捗状況 (ANA)

1. 燃油ヘッジ 基本方針

- 1) 国内線消費量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)
- 2) 国際線消費量は原則としてヘッジ対象外 (燃油サーチャージで対応)



| (US\$/bbl) | FY22 上期実績 | FY22 下期前提 |
|------------|-----------|-----------|
| ドバイ原油 | 102.4 | 100 |
| シンガポールクロシン | 138.0 | 130 |



2. 為替ヘッジ 基本方針

- 1) 不足する外貨量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)



| (円/US\$) | FY22 上期実績 | FY22 下期前提 |
|----------|-----------|-----------|
| ドル円レート | 134.2 | 145 |



* 2022年8月23日開示「2022年度下期 ANAグループ航空輸送事業計画」に基づいて算定

- ◎ ヘッジの進捗状況です。
- ◎ 原油市況の高止まりが続いている上、足元で円安が加速していますが、今年度については、燃油・為替ともヘッジ対応を完了しています。今般の業績修正に合わせて、下期の前提値を見直しましたが、今後の市況変動に伴う利益計画への影響は、限定的と見込んでいます。
- ◎ 38ページをご覧ください。

航空機数

| | 合計 | | | | | 退役済み機材*を除く | | |
|--------------------------------|--------------|------------------|------------|------------|------------|--------------|------------------|------------|
| | FY2021 期末 | FY2022 第2四半期末 | 前年度 期末差 | 保有機数 | リース機数 | FY2021 期末 | FY2022 第2四半期末 | 前年度 期末差 |
| Airbus A380-800 | 3 | 3 | - | 3 | - | 3 | 3 | - |
| Boeing 777-300/-300ER | 20 | 20 | - | 11 | 9 | 18 | 18 | - |
| Boeing 777-200/-200ER | 10 | 10 | - | 8 | 2 | 10 | 10 | - |
| Boeing 777-F | 2 | 2 | - | 2 | - | 2 | 2 | - |
| Boeing 787-10 | 2 | 2 | - | 2 | - | 2 | 2 | - |
| Boeing 787-9 | 39 | 39 | - | 33 | 6 | 39 | 39 | - |
| Boeing 787-8 | 36 | 36 | - | 31 | 5 | 36 | 36 | - |
| Boeing 767-300/-300ER | 18 | 18 | - | 18 | - | 18 | 18 | - |
| Boeing 767-300F/-300BCF | 9 | 9 | - | 6 | 3 | 9 | 9 | - |
| Airbus A321-200neo | 22 | 22 | - | - | 22 | 22 | 22 | - |
| Airbus A321-200 | 4 | 4 | - | - | 4 | 4 | 4 | - |
| Airbus A320-200neo | 11 | 11 | - | 11 | - | 11 | 11 | - |
| Boeing 737-800 | 39 | 39 | - | 24 | 15 | 39 | 39 | - |
| De Havilland Canada DASH 8-400 | 24 | 24 | - | 24 | - | 24 | 24 | - |
| ANA 計 | 239 | 239 | - | 173 | 66 | 237 | 237 | - |
| Airbus A321-200neoLR | 1 | 2 | +1 | - | 2 | 1 | 2 | +1 |
| Airbus A320-200neo | 7 | 8 | +1 | - | 8 | 7 | 8 | +1 |
| Airbus A320-200 | 29 | 27 | △2 | - | 27 | 27 | 23 | △4 |
| Peach Aviation 計 | 37 | 37 | - | - | 37 | 35 | 33 | △2 |
| グループ 計 | 276 | 276 | - | 173 | 103 | 272 | 270 | △2 |

* 退役済み・売却待ちまたはリース返却待ちの機材

航空事業以外のセグメント

| (億円) | 航空関連事業 | | | 旅行事業 | | |
|---------------------|-------------------|-------------------|-------|-------------------|-------------------|-------|
| | FY2021 第2四半期累計 | FY2022 第2四半期累計 | 前年差 | FY2021 第2四半期累計 | FY2022 第2四半期累計 | 前年差 |
| 売上高 | 976 | 1,135 | + 159 | 196 | 319 | + 123 |
| 営業利益 | 16 | △ 32 | △ 48 | △ 1 | △ 12 | △ 10 |
| 減価償却費 | 24 | 21 | △ 2 | 0 | 0 | △ 0 |
| EBITDA (営業利益+減価償却費) | 41 | △ 10 | △ 51 | △ 0 | △ 11 | △ 10 |
| EBITDAマージン(%) | 4.3 | - | - | - | - | - |

| | 商社事業 | | | その他 | | |
|---------------------|-------------------|-------------------|---------|-------------------|-------------------|------|
| | FY2021 第2四半期累計 | FY2022 第2四半期累計 | 前年差 | FY2021 第2四半期累計 | FY2022 第2四半期累計 | 前年差 |
| 売上高 | 383 | 476 | + 92 | 174 | 177 | + 2 |
| 営業利益 | 0 | 15 | + 15 | 6 | △ 3 | △ 10 |
| 減価償却費 | 5 | 4 | △ 1 | 2 | 1 | △ 0 |
| EBITDA (営業利益+減価償却費) | 6 | 20 | + 14 | 9 | △ 1 | △ 11 |
| EBITDAマージン(%) | 1.6 | 4.2 | + 2.7pt | 5.5 | - | - |

Intentionally Left Blank

Intentionally Left Blank

3. 2022年度 通期業績予想（詳細）



連結業績予想

* 2022年4月28日開示の業績予想

| (億円) | FY2021 | FY2022 修正予想 | 前年差 | FY2022 当初予想* |
|---------------------|---------|----------------|---------|-----------------|
| 売上高 | 10,203 | 17,000 | + 6,796 | 16,600 |
| 営業費用 | 11,934 | 16,350 | + 4,415 | 16,100 |
| 営業利益 | △ 1,731 | 650 | + 2,381 | 500 |
| 営業利益率(%) | - | 3.8 | - | 3.0 |
| 経常利益 | △ 1,849 | 550 | + 2,399 | 300 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | △ 1,436 | 400 | + 1,836 | 210 |

| 市況 | FY2022 当初前提 | FY2022 上期実績 | FY2022 下期前提 |
|-----------------------|----------------|----------------|----------------|
| 為替レート (円/US\$) | 120 | 134.2 | 145 |
| Fパイ原油 (US\$/bbl) | 105 | 102.4 | 100 |
| シンガポールケロシン (US\$/bbl) | 120 | 138.0 | 130 |

©ANAHD2022

38

- ◎ 通期業績予想の詳細について、ご説明します。
- ◎ 修正した内容は、スライドにお示した通りです。
- ◎ 続きまして、40ページをご覧ください。

セグメント別 計画

| (億円) | | FY2021 | FY2022 修正予想 | 前年差 | FY2022 当初予想* |
|------|---------|---------|----------------|---------|-----------------|
| 売上高 | 航空事業 | 8,850 | 15,270 | + 6,419 | 14,700 |
| | 航空関連事業 | 2,068 | 2,500 | + 431 | 2,550 |
| | 旅行事業 | 462 | 850 | + 387 | 1,120 |
| | 商社事業 | 816 | 1,000 | + 183 | 1,090 |
| | その他 | 381 | 370 | △ 11 | 370 |
| | 調整額 | △ 2,376 | △ 2,990 | △ 613 | △ 3,230 |
| | 合計 (連結) | 10,203 | 17,000 | + 6,796 | 16,600 |
| 営業利益 | 航空事業 | △ 1,629 | 680 | + 2,309 | 520 |
| | 航空関連事業 | △ 6 | 55 | + 61 | 60 |
| | 旅行事業 | △ 21 | △ 5 | + 16 | 10 |
| | 商社事業 | 5 | 25 | + 19 | 15 |
| | その他 | 13 | 5 | △ 8 | 0 |
| | 調整額 | △ 93 | △ 110 | △ 16 | △ 105 |
| | 合計 (連結) | △ 1,731 | 650 | + 2,381 | 500 |

* 2022年4月28日開示の業績予想

航空事業 売上高・営業費用 計画

| (億円) | | FY2021 | FY2022 修正予想 | 前年差 | FY2022 当初予想* |
|------|------------|---------|----------------|---------|-----------------|
| 売上高 | ANA 国際旅客 | 701 | 4,000 | + 3,298 | 3,020 |
| | ANA 国内旅客 | 2,798 | 5,320 | + 2,521 | 5,960 |
| | ANA 貨物郵便 | 3,617 | 3,660 | + 42 | 3,400 |
| | ANA その他 | 1,354 | 1,300 | △ 54 | 1,230 |
| | LCC | 378 | 990 | + 611 | 1,090 |
| | 合計 | 8,850 | 15,270 | + 6,419 | 14,700 |
| 営業費用 | 燃油費・燃料税 | 1,939 | 3,690 | + 1,750 | 3,390 |
| | 燃油費・燃料税 以外 | 8,540 | 10,900 | + 2,359 | 10,790 |
| | 合計 | 10,480 | 14,590 | + 4,109 | 14,180 |
| 営業利益 | 営業利益 | △ 1,629 | 680 | + 2,309 | 520 |

* 2022年4月28日開示の業績予想

©ANAHD2022

40

- ◎ 航空事業における、売上高と費用の修正計画です。
- ◎ 国際線事業では、旅客、貨物ともに、上期の実績が好調に推移したことに加えて、水際対策の緩和を受けて、旅客需要は下期も回復が続くと想定しています。一方、国内旅客では、感染第7波の影響を受けて、需要の回復は後ろ倒しとなる見込みです。これらを踏まえて、売上高の計画を修正します。
- ◎ 一方、営業費用について、生産量に連動する費用や、市況前提を見直した影響などを反映しました。
- ◎ これらの結果、航空事業の営業利益は、680億円となる計画です。
- ◎ 次の41ページから42ページには、今回修正した航空事業の営業利益について、前年実績および当初計画との差異を、グラフでお示しています。また43ページから45ページは、売上高の前提となる、事業別の主な指標を掲載していますので、併せてご確認ください。
- ◎ 私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

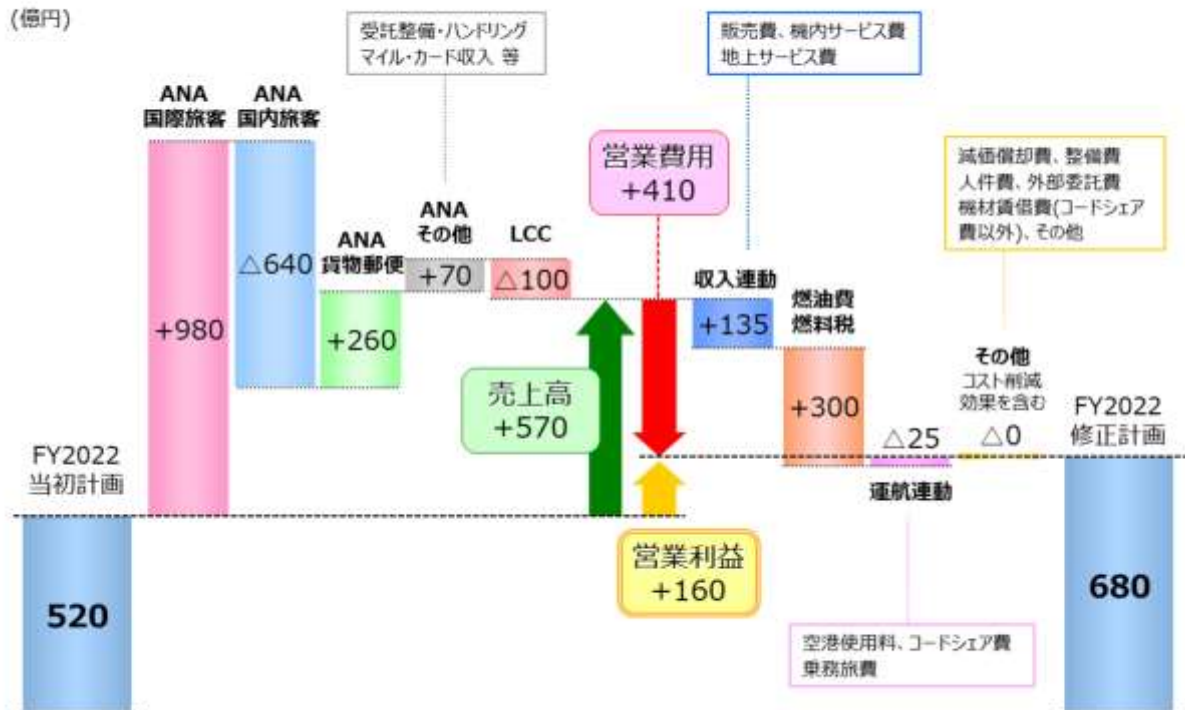
航空事業 営業利益（前年度との差異）

(億円)



【参考】航空事業 営業利益（当初計画との差異）

(億円)



航空事業 計画前提

計画前提 (ANA旅客事業)

| | | 国際旅客 | | | 国内旅客 | | |
|-----------------------------|-----------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------|--------------------|
| | | 上期 (実績) | 下期 (修正計画) | 通期 (修正予想) | 上期 (実績) | 下期 (修正計画) | 通期 (修正予想) |
| 座席キロ | 前年比 (CY19比)* | + 55.9 (△ 57.8) | + 88.9 (△ 38.7) | + 73.7 (△ 48.4) | + 57.7 (△ 20.9) | + 35.9 (△ 10.6) | + 45.6 (△ 15.9) |
| 旅客キロ | 前年比 (CY19比)* | + 376.7 (△ 60.0) | + 358.9 (△ 42.1) | + 366.1 (△ 51.2) | + 112.4 (△ 33.8) | + 76.8 (△ 15.5) | + 91.2 (△ 24.8) |
| 旅客数 | 前年比 (CY19比)* | + 406.6 (△ 67.9) | + 405.7 (△ 49.8) | + 406.0 (△ 59.0) | + 112.2 (△ 34.4) | + 74.7 (△ 14.8) | + 89.6 (△ 24.8) |
| 座席利用率(%) | | 72.8 | 72.4 | 72.6 | 58.9 | 66.3 | 62.8 |
| ユニットレベニュー(円) (旅客収入/座席キロ) | | 11.0 | 11.4 | 11.2 | 10.2 | 11.1 | 10.6 |
| イールド(円) (旅客収入/旅客キロ) | | 15.1 | 15.8 | 15.5 | 17.2 | 16.8 | 17.0 |
| 単価(円) (旅客収入/旅客数) | | 97,227 | 94,995 | 95,882 | 16,028 | 15,277 | 15,611 |

* コロナ前(2019年1月~12月実績)との比較

航空事業 計画前提

計画前提 (ANA貨物事業)

| | 国際貨物 | | | 国内貨物 | | |
|---------------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| | 上期 (実績) | 下期 (修正計画) | 通期 (修正予想) | 上期 (実績) | 下期 (修正計画) | 通期 (修正予想) |
| 有効貨物トンキロ 前年比 (CY19比)* | △ 1.7 (△ 7.4) | △ 5.9 (△ 8.8) | △ 3.9 (△ 8.1) | + 51.8 (△ 25.9) | + 38.9 (△ 14.8) | + 44.8 (△ 20.5) |
| 有償貨物トンキロ 前年比 (CY19比)* | △ 12.5 (+ 5.8) | △ 17.6 (+ 4.4) | △ 15.1 (+ 5.1) | + 1.3 (△ 27.7) | + 5.5 (△ 23.0) | + 3.5 (△ 25.3) |
| 貨物輸送重量 前年比 (CY19比)* | △ 10.8 (△ 1.9) | △ 14.5 (△ 2.3) | △ 12.7 (△ 2.1) | + 2.1 (△ 33.9) | + 8.5 (△ 25.9) | + 5.4 (△ 29.8) |
| 重量利用率(%) | 66.1 | 65.4 | 65.7 | 20.9 | 21.2 | 21.0 |
| ユニットレベニュー(円) (貨物収入/有効貨物トンキロ) | 55.1 | 44.2 | 49.6 | 17.9 | 18.8 | 18.4 |
| イールド(円) (貨物収入/有償貨物トンキロ) | 83.3 | 67.6 | 75.5 | 85.7 | 88.9 | 87.4 |
| 単価(円) (貨物収入/貨物輸送重量) | 432 | 347 | 390 | 97 | 96 | 96 |

* コロナ前(2019年1月~12月実績)との比較

航空事業 計画前提

計画前提 (LCC事業)

(CY19実績はPeach・バニラエア合計)

| | | LCC | | |
|----------------------------|-----------------|---------------------|--------------------|--------------------|
| | | 上期 (実績) | 下期 (修正計画) | 通期 (修正予想) |
| 座席千口 | 前年比 (CY19比)* | + 85.3 (+ 3.0) | + 39.1 (+ 12.0) | + 58.3 (+ 7.4) |
| 旅客千口 | 前年比 (CY19比)* | + 136.7 (△ 17.3) | + 83.5 (+ 16.4) | + 103.1 (△ 0.9) |
| 旅客数 | 前年比 (CY19比)* | + 137.0 (△ 7.8) | + 79.5 (+ 26.9) | + 100.4 (+ 9.2) |
| 座席利用率(%) | | 69.8 | 87.8 | 79.1 |
| ユニットレベニュー(円) (売上高/座席千口) | | 6.8 | 9.1 | 8.0 |
| イールド(円) (売上高/旅客千口) | | 9.7 | 10.4 | 10.1 |
| 単価(円) (売上高/旅客数) | | 11,076 | 11,984 | 11,593 |

* コロナ前(2019年1月~12月実績)との比較

Intentionally Left Blank

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
 私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます
 私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、お客様満足と価値創造で
 世界のリーディングエアライングループを目指します

グループ行動指針
(ANA's Way)

私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)
安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)
常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)
誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)
多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)
グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、感染症の継続・拡大、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 ➡ I R 資料室 ➡ 決算説明会資料

ANAホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・I R部

Eメール : ir@anahd.co.jp